第 15 回　会長の時間（国際平和に向けて・その 1）

2023 年 10 月 31 日
加賀山 茂

１．コロナ禍に代わって世界中に戦禍が拡大

コロナ禍の先行きがまだ不透明の頃 2022 年 2 月 24 日に始まったロシアのウクライナ侵攻（ウクライナ戦争）は，激化の一途をたどっており収束の見通しは立っていません。そしてコロナ禍が収まりかけたと思ったら，2023 年 8 月 24 日に始まった福島原発事故の汚染水・アルプス処理水の放出を理由として，9 月 24 日，中国は，日本の海産物の輸入を禁止するという経済威圧（経済戦争）を開始しました。さらには，コロナ禍が収まった 2023 年 10 月 7 日，ガザ地区を実効支配しているハマスとイスラエルとの軍事衝突が始まるというように，今や，コロナ禍に代わって，世界中に戦禍が及んでいます。

２．日本の RC が世界平和に貢献するための重大な障害

ロータリーの目的は，①親睦，②高潔，③奉仕，そして，④国際平和です。世界で初めて原爆被害を受け，平和憲法を掲げる日本のロータリアンこそが，世界平和の実現のために大きな貢献をすべきだと思います。

しかし，現在のところでは，実は，私たち日本人にはその資格が危ういのです。なぜなら，日本は，日本国憲法が掲げる平和主義，個人の尊厳に反する「死刑制度」を残しているからです。死刑制度を残している国は，世界では，今や少数ですし，死刑制度を残している国はそもそも EU への参加資格がありません（図 1 参照）。なぜなら，死刑制度は，国際人権規約，「死刑に直面している者の権利の保護の保障に関する決議」（1984 年国連経済社会理事会決議）などに違反しているからです（なお，アメリカ合衆国については図 2 を参照）。

３．死刑制度を肯定する心に潜む「戦争肯定」の考え方

死刑制度の起源は，「目には目を，歯には歯を」というハムラビ法典の「同害報復」という考え方に基づいています。すなわち，死刑制度は，「死には死を」という考え方の実践なのです。もっと卑近な例で言えば，「やられたらやり返す」という報復主義です。

日本では，「死刑制度を廃止したら殺人が増える（死刑廃止国でも殺人は増加しておらず，統計的には否定された考え方）」とか，「遺族の思いを思えば死刑は廃止できない」とかの理由で，「死には死（極刑）を」という遺族の考え方が日本国憲法以上に尊重されています。しかし，この考え方こそが，戦争を肯定する最も危険な思想であり，日本人の多くの人々が

この考え方を是認している限り，世界の多数の死刑廃止国，特に，EU の人々は，日本人は，戦争をやめさせるための思想を有していないと考えています。

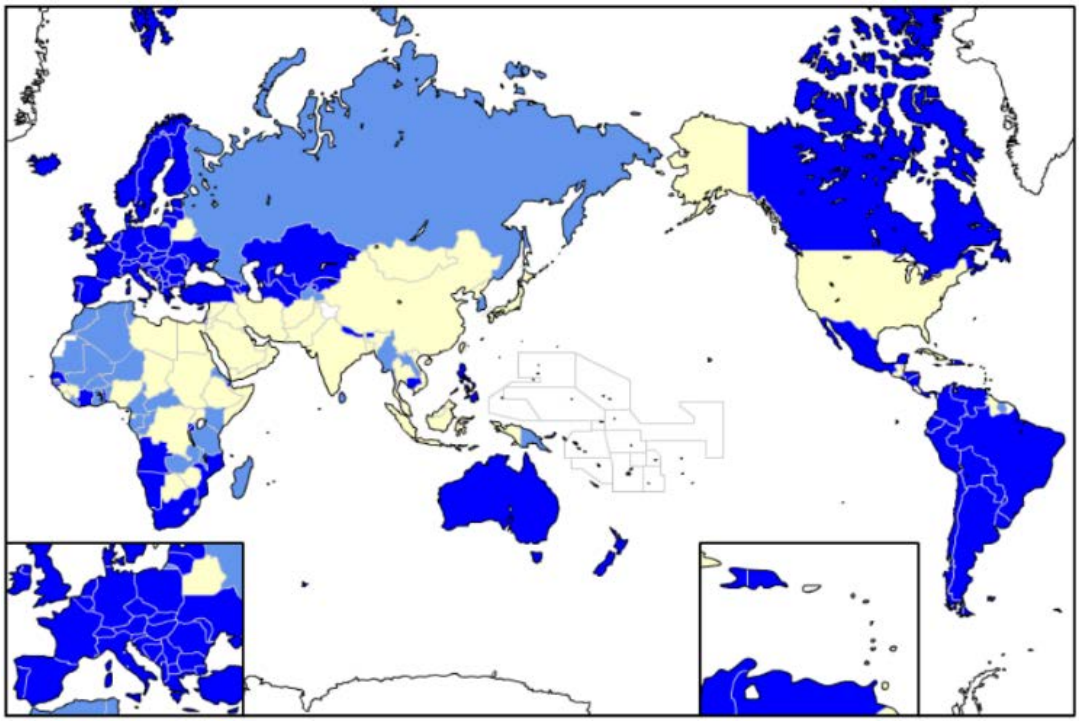


図１　死刑の存置国・廃止国一覧（「Amnesty International」による）

https://www.nichibenren.or.jp/library/ja/committee/list/shikeimondai/data/q07_1.pdf

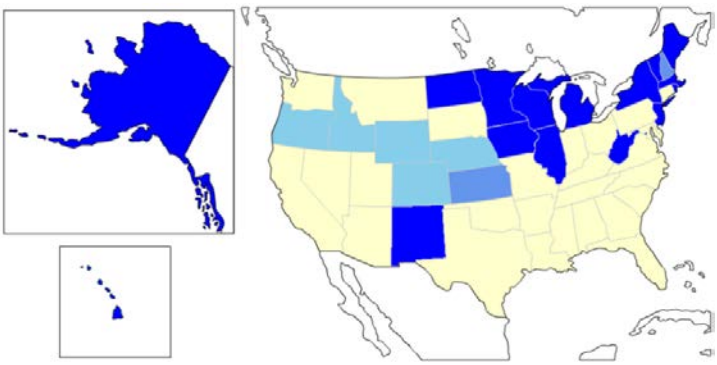
（青：法律上死刑を廃止した国　薄い青：事実上の死刑廃止国　薄い黄色：死刑存置国）

４．日本のロータリアンに必要なこと

それでは，日本のロータリアンは，この問題をどのように解決すべきなのでしょうか。

既定の時間が来ましたので，今回は，これで終わります。この続きは，いつか機会を見つけて「会長の時間」で述べるつもりです。

以上をもって会長の時間とさせていただきます。



（青：法律上死刑を廃止した州　薄い青：1976 年以降執行していない州　水色：過去 10 年以上にわたって執行していない州　薄い黄色：死刑存置州）

https://www.nichibenren.or.jp/library/ja/committee/list/shikeimondai/data/q07_1.pdf